

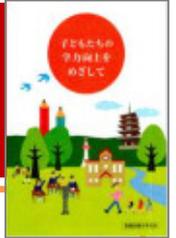


～小・中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第13号

# 学びのコンパス

～中学校ブロックで  
取り組む学力向上～



## 事例35

春日丘中学校 の実践例から.....

### カリキュラム・マネジメントを意識した特別活動で、キャリア教育の充実を図る

春日丘中学校では、主な学校行事の前後に学級での特別活動「話し合い活動」を実施し、行事を通して付けたい力について生徒自身がPDCAサイクルを確立し、各教科等の学習でも「話し合い活動」を生かしています。さらに学力向上につなげるため、カリキュラム・マネジメントの視点をもって、授業改善と年間指導計画の見直しを行っています。

学校教育目標「確かな自立・志ある貢献」  
～自分の考えを持ち、協働して課題解決ができる力を育てる～

教科の学習  
道徳

総合的な  
学習の時間

体育大会  
合唱コンクール

春日丘  
フェスティバル



取組の前後に・・・  
**特別活動「話し合い活動」**  
-生徒がPDCAを確立-



信頼しあえる  
仲間づくり

安心・安全な  
空間の醸成



間違いをおそれず授業に参加

学力の向上へ

#### ◆「話し合い活動」では◆

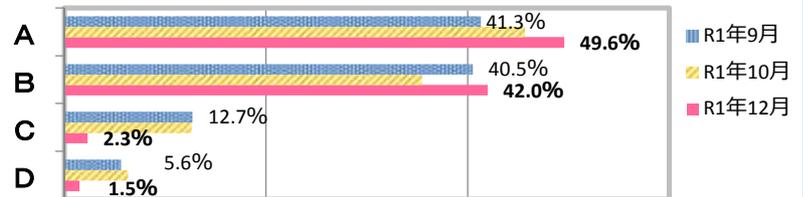
- ① 生徒自身が目標を設定
- ② 意見を出し合って合意形成
- ③ その後の学校生活に生かすPDCAサイクルを確立！

#### ◆ 春日丘フェスティバル ◆

生徒会スローガン「人のために」を実践する場として、生徒自身が地域貢献を実感できる学校行事。保育園、幼稚園、小学校や高齢者施設など、地域から「ゲスト」をお招きし、各教室で参加型イベントを実施。「キャスト」役の生徒がゲストの接待、校内清掃などの運営を行う。小中一貫教育を進めるうえでも、大きな意義のある行事となっている。

キャリア教育に関する生徒アンケート結果  
「学校行事（合唱コンクールや春日丘フェスティバルなど）で経験したことを、将来に役立てられる」（評価A～Dで回答）

⇒ R1年12月（行事実施2か月後）に、肯定的回答（評価A、B）が増加！



A:できる B:どちらかと言えばできる C:どちらかと言えばできない D:できない

#### 取組を振り返って

- ・「話し合い活動」を、各教科等の学びや生徒会・委員会活動をはじめとする学校生活の様々な場面に取り入れることで、特別活動と各教科等の関係や実生活、実社会とのつながりを意識できるようになってきた。
- ・「話し合い活動」を通じて安心できる空間づくりを進めることで、生徒の学習意欲を高め、学びに向かう力がついていくと考えている。生き方探究（キャリア）教育の視点から、研究を継続していきたい。

家庭学習の取組については・・・

春日丘中ブロックで、小中共通の「家庭学習の手引き」を発行しています

次ページ

事例36 「PDCAサイクル」で、学力向上プランを考える

春日野小学校では、算数科・外国語活動を通して、「相手意識をもったコミュニケーション能力の育成」を研究しています。「コミュニケーション能力」の基礎となる「基礎的・基本的な学力の定着」のため、「PDCAサイクル」で授業改善や効率化を図っています。

- 【子ども達のコミュニケーション能力の育成を支えるために】  
 ●主体的な学習意欲の向上 ●基礎的・基本的な学力の定着 ●家庭学習の定着



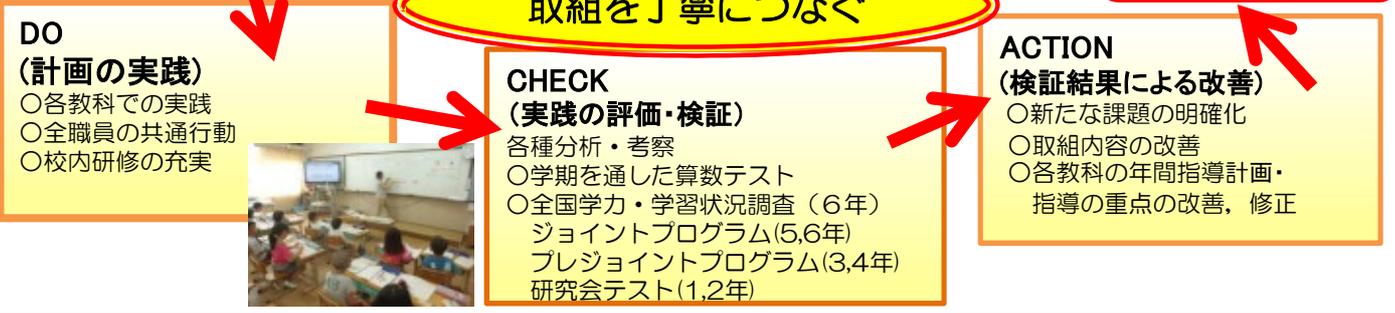
PLAN(学力向上に向けた取組)

- 学力実態の分析をふまえた各教科の年間指導計画・指導の重点の設定  
 ○授業改善による授業の充実

<p><b>①学力分析 児童の実態把握</b>                  全学級の算数科の各単元を相対評価し、統計から知識理解・技能・表現の実際を把握</p>	<p><b>②チャレンジ10 計算力・ 計算技能向上</b>                  計算を中心とした問題（復習・重点単元・次単元に向けた練習など）を週4回、10分間実施</p>	<p><b>③サマースクール 休業中の 学習支援・補習</b>                  夏季休業中に学力補充のための少人数制補習の実施、教室開放など</p>	<p><b>④家庭学習の充実 既習内容の定着</b>                  ・全学年で「漢字」「計算」「音読」「自主学習」を設定                  ・長期休業中の家庭学習の適切な課題設定など</p>	<p><b>⑤自主学習の推進 主体的な学習</b>                  各学年に応じた日数の設定                  （例：6年生週4日）</p>
---	--	---	---	---

「家庭学習の手引き（中学校区三校作成）」の活用

取組を丁寧につなぐ



取組を振り返って

- ・ジョイントプログラムの指数において、算数科を中心に上昇傾向にある。
- ・学力向上委員会と研究委員会の役割が明確化し、基礎基本の習得のための取組が具体化した。
- ・児童の実態がさらに明らかになり、次年度につなげるシステム構築ができつつある。
- ・研究委員会との連携など、継続した取組になるよう十分な申し送りが必要となる。

小中合同で「家庭学習の手引き」を発行、学力向上を目指す

春日丘ブロックでは、3校（春日丘中・春日野小・日野小）の連携を進める中で見えた課題から、「家庭（自主）学習」「コミュニケーション能力の育成」「ノート指導」について、重点的に取り組んでおり、児童・生徒が、自ら学びに向かう力をつけるために、小中9年間で家庭（自主）学習の重要性や学習の方法、習慣化の定着を図っています。

家庭（自主）学習についての道しるべとなる「家庭学習の手引き」を3校合同で作成し、ブロック内の3校のすべての児童・生徒の家庭に配布しています。（右ページへ）

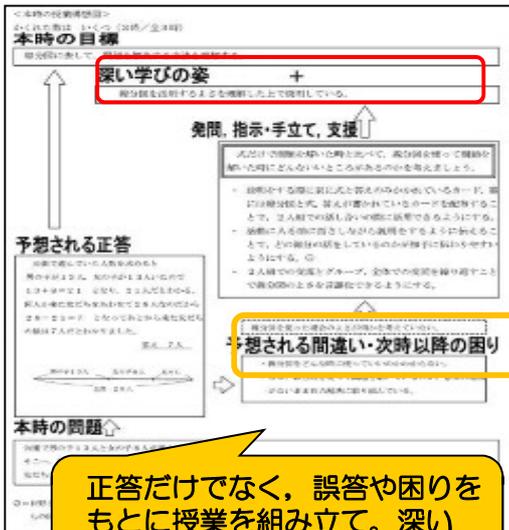


事例37 「なぜ間違えるのか」「何に困るのか」から、発問・指示・支援を考える

日野小学校では、子どもたちが「なぜ間違えるのか」「何に困るのか」を追究することで、授業における本質を見出し、深い学びの姿を明らかにしながら、そこへ至るまでの発問・指示・支援の在り方を考える授業づくりをすすめています。

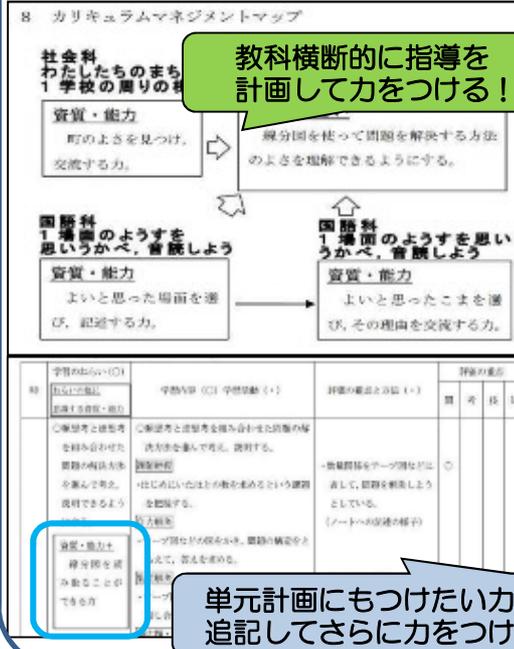
授業構想図を活用

児童がどこでつまずくのか、次時以降どんなことで困るのかを具体的にイメージすることで、児童の実態に合った深い学びの姿を明らかにする。



指導案の形式を工夫

教科横断的に資質・能力を育成することを視野に入れ、児童の具体的な姿をイメージしやすいものにする。



日野漢字・計算検定の実施、家庭学習の手引きの活用

自らの成長の喜びと基礎的・基本的な知識・技能を実際に習得できる場にする。

「家庭学習の手引き(中学校区三校作成)」の活用

家庭学習や、自主学習の取り組み方に変化が現れる！



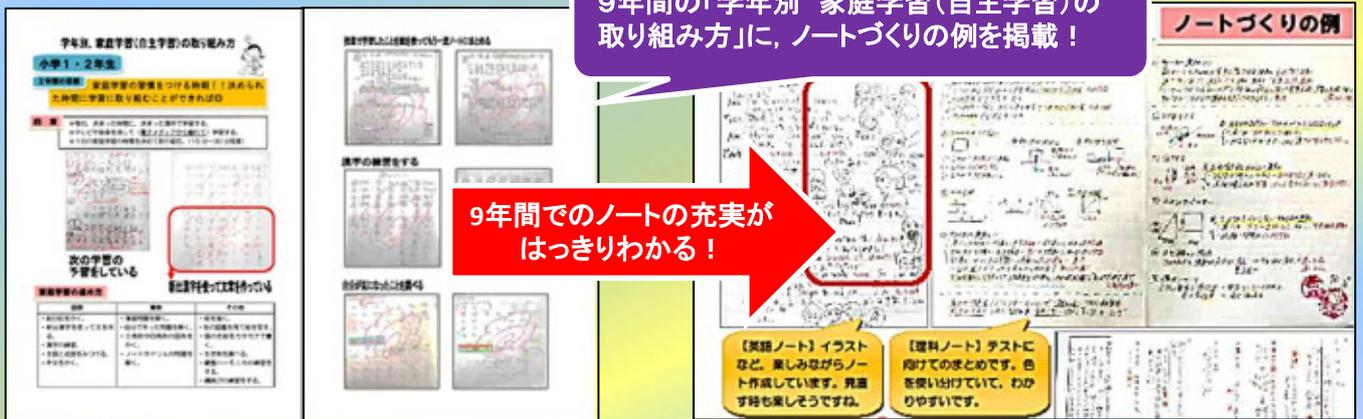
取組を振り返って

- 基礎的・基本的な学力を身につけることにつながった。
- ジョイントプログラム「算数」 4年+12.1, 5年+7.0, 6年+15.9 (H29冬→H30冬 同一集団指数比)
- 研究が具体的であるため、全教職員で研究の方向性を共有することができた。
- 若手教員を含めて、一人一人の教職員が理解しやすい研究、指導案となった。指導案を作ることで、授業を本時だけでなく単元として、また、教科横断的にとらえることができるようになった。

(→左ページより) 3校の全教職員が家庭(自主)学習することの意義、学習の定着の可視化(勉強がわかるという実感やテストでの得点の伸び)などを共通認識しながら取組を進めています。

9年間の「学年別 家庭学習(自主学習)の取り組み方」に、ノートづくりの例を掲載！

9年間でのノートの充実がはっきりわかる！



小学1・2年生

中学3年生(部分)

※光京都イントラに拡大版を掲載します。(次頁参照)

# 令和元年度 全国学力・学習状況調査における京都市立小・中学校の結果概要について

(結果概要は、京都市教育委員会HPにも掲載しています。)

## ◆ 平均正答率一覧

指数…全国の正答率を100とした場合の値

順位…本市の( )内は、左：都道府県47自治体中相当の順位 右：指定都市20自治体中の順位

	小学校調査			中学校調査				
	国語	算数	合計	国語	数学	英語	合計	
本市	指数	67	68	67.5	73	61	56	63.3
	順位	105.0 (9位/2位)	102.1 (6位/4位)	103.5 (7位/3位)	100.3 (17位/9位)	102.0 (10位/8位)	100.0 (13位/12位)	100.7 (13位/12位)
全国	63.8	66.6	65.2	72.8	59.8	56	62.9	
京都府 (本市除く)	65	68	66.5	73	61	56	63.3	
京都府 (本市含む)	66	68	67	73	61	56	63.3	
指定都市 トップ	69 (新潟)	70 (川崎)	68 (新潟・さいたま)	77 (仙台)	63 (仙台・さいたま)	62 (さいたま)	67 (さいたま)	
都道府県 トップ	74 (秋田)	72 (石川)	72 (秋田・石川)	78 (秋田)	66 (福井)	59 (東京・神奈川・福井)	67.3 (福井)	

- ・小学校は、国語、算数の2教科全てにおいて全国平均を上回る良好な結果となっています。
- ・中学校は、国語、数学では全国平均を上回り、英語は全国平均と同等の結果となっています。

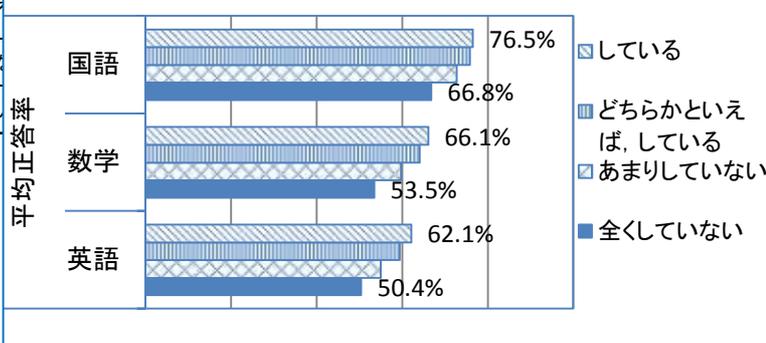
## ◆ 学校全体や中学校ブロックで、子どもの学力状況や生活習慣等を把握・分析してください。

- ・「京都市小中一貫学習支援プログラム分析システム」を使って、ジョイプロ・確プロのほか、全国学力・学習状況調査の結果についても、児童生徒質問紙と正答率のクロス集計ができます。自校の児童・生徒について、学力と指導方法、学習習慣との関連を把握・分析してください。

⇒ [光京都イントラ](#) > ●3 各課のページへ > [学校指導課](#) > ●ジョイントプログラム・学習確認プログラム

### (例)家庭学習に関する生徒質問紙と、平均正答率のクロス集計による分析

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	平均正答率		
	国語	数学	英語
している	76.5%	66.1%	62.1%
どちらかといえ ば、している			
あまりして いない			
全くして いない			



「令和元年度 全国学力・学習状況調査」より  
本市中学校のデータをクロス集計。

①生徒質問紙「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」への回答

②各教科の平均正答率

(分析)  
計画的な学習に取り組んでいる生徒ほど、平均正答率が高い。

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★  
[光京都イントラ](#) > ●3 各課のページへ > [学校指導課](#) > ●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

★作成に御協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！

★ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 令和元年12月・第13号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課  
教育改革担当(Tel.222-3851)